

第4章 史跡の本質的価値

第1節 史跡の本質的価値

ホゲット石鍋製作遺跡は、古代末から中世にかけて厨房具として使用された滑石製石鍋の製作遺跡として、当時の生産活動と流通を考える上で欠くことのできない貴重な遺跡と評価されたが、その本質的価値は以下のとおりである。

価値① 日本最大級の石鍋製作遺跡

滑石製石鍋は、軟質な石材である滑石を素材としており、石鍋製作遺跡は蛇紋岩の分布する変成岩帯にのみ存在する。地域的には山口県・福岡県・長崎県の3県に偏在しており、その中でも長崎県西彼杵半島の変成岩帯に多くの石鍋製作遺跡が確認されている。

西海市には日本で最も多くの石鍋製作遺跡が確認されており、その中でもホゲット石鍋製作遺跡は、雪浦川の中流右岸の標高122mを頂点とする独立した山塊の北西斜面に11か所の工房跡が密集している。山塊とその周辺全体が史跡として保存されており、近年の調査で20か所を超える新規の工房跡が発見され、名実ともに日本最大級の石鍋製作遺跡である。



図 4-1 全国の石鍋製作遺跡

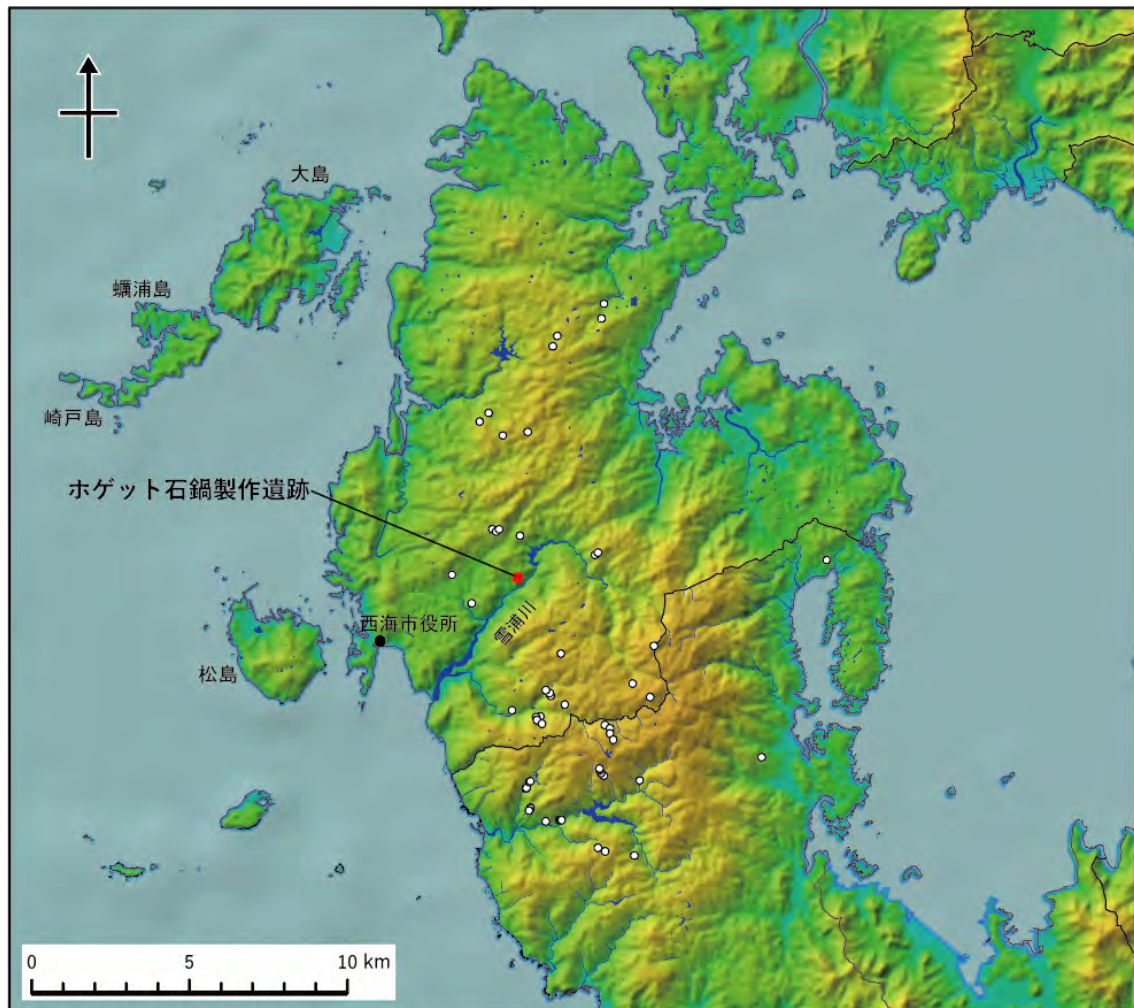


図 4-2 西彼杵半島の石鍋製作遺跡

価値② 石鍋製作時の姿を復元できる遺跡

ホゲット石鍋製作遺跡の所在する西彼杵半島の変成岩帯には滑石などの有用鉱物の宝庫であり、戦後それらの採掘のため至る所に鉱業権が設定され、採掘が行われていた。鉱業権が設定された区域にある石鍋製作遺跡では滑石採掘が行われた形跡が認められ、石鍋製作の痕跡がき損されたものもある。そうした中で町有地であったホゲット石鍋製作遺跡の所在する山塊には鉱業権が設定されておらず、戦後の滑石採掘から免れることができたため、近世に入るまでの石鍋製作時の痕跡の姿が良好に残されている。

また史跡内には江戸時代に構築された結晶片岩製の猪垣を除いて後世の人工物は構築されておらず、石鍋製作の操業を停止した時点の姿で保存状態が良く残されており、石鍋を製作していた当時の環境や風景を復元できる貴重な遺跡である。

価値③ 石鍋製作工程の全体を復元できる遺跡

ホゲット石鍋製作遺跡の各工房跡の滑石層には、石鍋製作工程の初期段階である石鍋粗型のための方形区画や自由採掘による抜き取り痕跡および円形の石鍋粗型の取り残しが観察できる。また第6工房跡の発掘調査では、滑石層から剥ぎ落とした角錐状やそろばん玉状の石鍋粗型から完成品に至るまでのさまざまな段階の遺物が出土している。それらに残された加工の痕跡から、刃幅の異なるノミ状工具による加工や製作過程を復元するための情報がよく残されていることから、石鍋製作の全体像を知ることができる。

特に規模の大きい第6工房跡の北側には滑石層に石鍋粗型を作り出すときに生じた滑石削り片や剥ぎ落とした石鍋粗型を製品に仕上げる際に途中で破損した未製品が堆積している。こうした滑石層や石鍋製品に残されたノミ痕を分析すると、石鍋工人が石鍋製作の段階によって工具を使い分けたことや効率的な生産への工夫が見て取れる。

価値④ 石鍋の流通と消費を解明する上で欠くことのできない遺跡

滑石製石鍋は、古代末から中世にかけての食文化の一端を支えた調理具の一つであり、その形態は時期的に異なり、大きく把手付き（縦耳型）と鐳付に区分されている。前者は古代末から中世初期（鎌倉時代初頭）に生産され、主として九州北部（肥前・筑前・筑後）を中心に西日本（琉球含む）で出土している。12世紀以降に生産された鐳付石鍋になると、北海道を除き、北は青森県から南は沖縄県までに分布域が拡大する。こうした石鍋の大量消費を支えるには、大規模な滑石鉱床の存在が必須であり、それを可能にしたのは西彼杵半島の変成岩帯であった。

工房跡群として詳細分布調査が実施されたホゲット石鍋製作遺跡は、消費地での石鍋の流通と消費の実態解明を進めていくうえで欠かせない遺跡である。

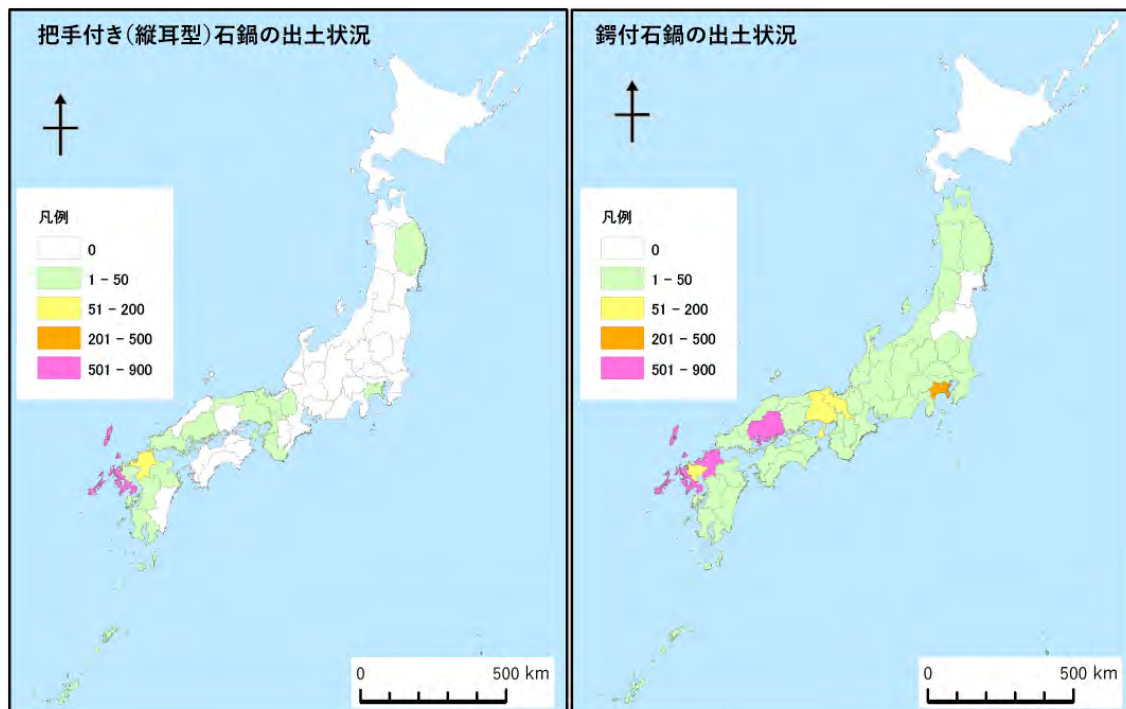


図 4-3 石鍋の出土状況

第2節 構成する要素

史跡の保存活用を適切に行っていくには、様々な要素を抽出・整理し、把握する必要がある。本計画では、史跡を構成する要素について、「本質的価値を構成する要素」、「本質的価値を支える要素」に大別し、「本質的価値を支える要素」は、さらに「保存活用に有効な要素」、「史跡の理解に有効な要素」、「自然環境を示す要素」、「歴史的環境を示す要素」に分類した。

■本質的価値を構成する要素

本質的価値を構成する要素は、指定説明文に明示されている内容に基づく要素とその後の各種調査に基づき、将来にわたり確実に保存すべきものである。

本質的価値を構成する要素として、工房跡（第1工房跡～第11工房跡）および石鍋の製作工程や加工技術が見てとれる出土遺物（石鍋未製品・炭化材・木製工具）が該当する。また、11工房以外にも工房跡が確認されており、埋蔵遺物（石鍋未製品・石鍋の破片等）も多く残されていることから、新規工房跡および埋蔵遺物についても該当するものとした。

■本質的価値を支える要素

○保存活用にも有効な要素

史跡の適切な保存管理や整備・活用にも有効な要素として、説明板、案内板、境界標、見学路、駐車場が該当する。

○史跡の理解にも有効な要素

史跡の理解にも有効な要素として、出土遺物の展示・解説を行っている大瀬戸歴史民俗資料館が該当する。

○自然環境を示す要素

雪浦地域の自然環境を示す要素として、シイ・カシなどの照葉樹林、雪浦川が該当する。

○歴史的環境を示す要素

雪浦地域の歴史を示す要素として、猪垣、小田貝塚、雪浦清水遺跡が該当する。

(1) 構成要素

本質的価値を構成する要素と本質的価値を支える要素を特定した。

表 4-1 構成要素

分類		構成要素	
		種別	主な細要素
本質的価値を構成する要素		工房跡	第1工房跡～第11工房跡
		新規工房跡	11工房以外に確認されている工房跡
		埋蔵遺物	現地に残されている石鍋未製品等
		出土遺物	過去の調査等で出土・採取した滑石製品、炭化材、木製工具（クワ・カケヤ・スコップ）
本質的価値を支える要素	保存活用に有効な要素	便益施設	説明板、案内板、境界標、見学路、駐車場
	史跡の理解に有効な要素	教養施設	大瀬戸歴史民俗資料館
	自然環境を示す要素	自然環境	シイ・カシなどの照葉樹林、雪浦川
	歴史的環境を示す要素	歴史的環境	猪垣、小田貝塚、雪浦清水遺跡

(2) 本質的価値を構成する要素

1) 工房跡



写真 4-1 第1工房跡



写真 4-2 第2工房跡



写真 4-3 第3工房跡



写真 4-4 第4工房跡



写真 4-5 第 5 工房跡



写真 4-6 第 6 工房跡



写真 4-7 第 7 工房跡



写真 4-8 第 8 工房跡



写真 4-9 第 9 工房跡



写真 4-10 第 10 工房跡



写真 4-11 第 11 工房跡

2)新規工房跡



写真 4-12 新規工房跡



写真 4-13 新規工房跡 (粗型製作痕)

3)埋蔵遺物



写真 4-14 石鍋未製品



写真 4-15 石鍋の破片

4)出土遺物



写真 4-16 石鍋出土品



写真 4-17 炭化材



写真 4-18 木製工具(長崎県埋蔵文化財センター提供)

(3) 本質的価値を支える要素

1) 保存管理に有効な要素 (便益施設)



写真 4-19 史跡説明板



写真 4-20 案内板



写真 4-21 見学路



写真 4-22 駐車スペース

2) 史跡の理解に有効な要素 (教養施設)



写真 4-23 大瀬戸歴史民俗資料館



写真 4-24 大瀬戸歴史民俗資料館 (展示状況)

3) 自然環境を示す要素 (自然環境)



写真 4-25 照葉樹林



写真 4-26 雪浦川

4) 歴史的環境を示す要素 (歴史的環境)



写真 4-27 猪垣



写真 4-28 小田貝塚